



まちづくり部会資料

施策4-5-1 魅力にあふれた広域拠点の形成

まちづくり局
令和2年6月

資料をご覧ください。上での注意事項

掲載している数値等は、6月26日（令和2年度川崎市政策評価審査委員会第2部会の開催日）時点のものであり、今後、修正・変更になる可能性があります。

施策の概要

基本政策 (1層) 活力と魅力あふれる力強い都市づくり

政策 (2層) 魅力ある都市拠点を整備する

施策 (3層) 魅力にあふれた広域拠点の形成

直接目標 川崎・武蔵小杉・新百合ヶ丘周辺の魅力を高める

主な事務事業

川崎駅周辺総合整備事業

京急川崎駅周辺地区整備事業

小杉駅周辺地区整備事業

小杉駅交通機能強化等推進事業

新百合ヶ丘駅周辺地区まちづくり推進事業

実施計画に位置付けた成果指標

概要 背景 取組 成果 まとめ

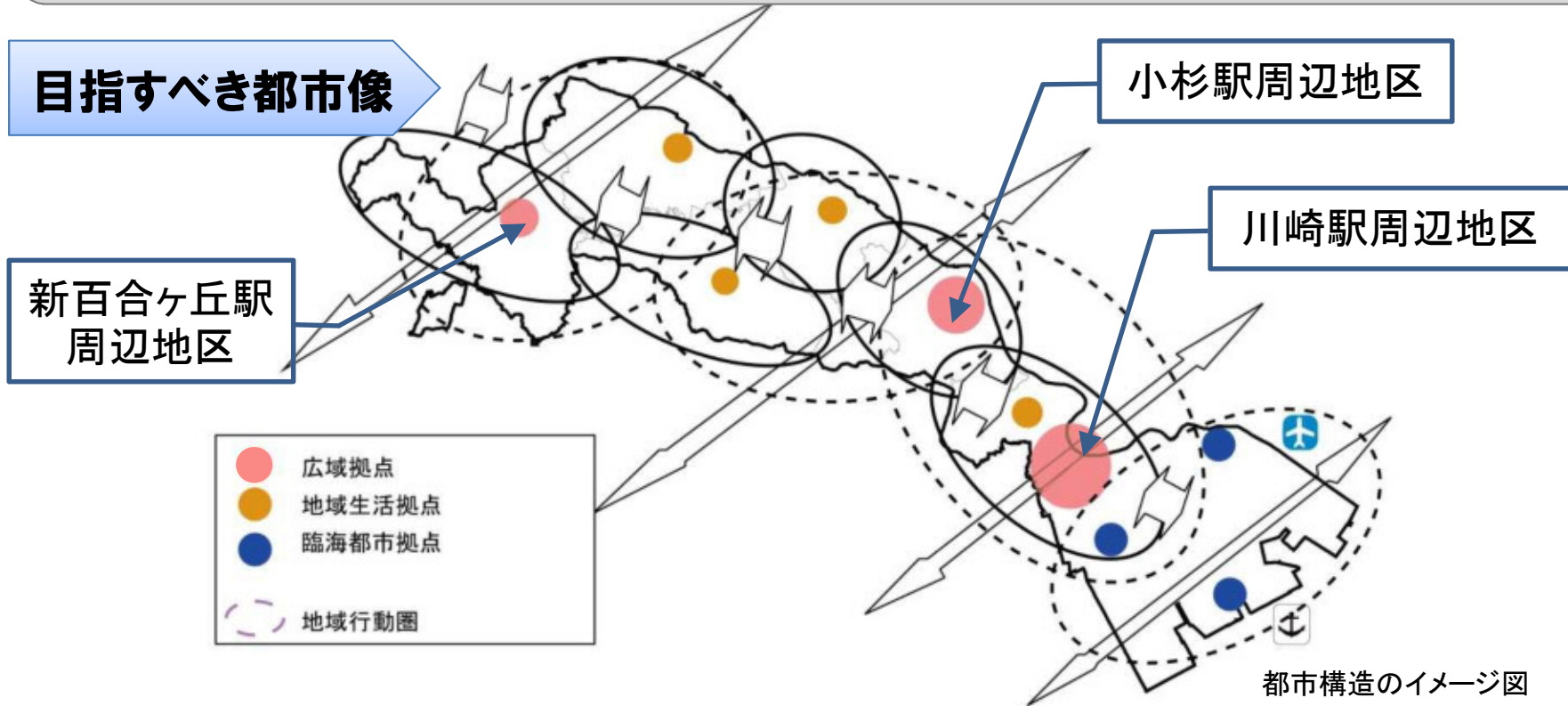
成果指標①		広域拠点(川崎駅・武蔵小杉駅・新百合ヶ丘駅)の駅周辺人口			
算出方法	広域拠点の駅を中心に半径500m 圏内の町丁目の川崎市統計書による人口を合計				
指標の考え方	川崎、武蔵小杉、新百合ヶ丘駅周辺の整備を進め、各駅周辺の魅力が高まることで、各駅周辺の居住者の増加が見込まれるため、駅を中心に半径500m 圏内の町丁目の人口を指標として設定する。				
指標の目標値	第1期策定時 12.6万人(H26)	第1期目標 12.9万人以上(H29)	第2期目標 13.9万人以上(R3)	第3期目標 14.4万人以上(R7)	
目標値の考え方	将来人口推計により算出した増減率を使用し、各年度の駅周辺人口の推計値を算出し、目標とする。				

成果指標②		広域拠点(川崎駅・武蔵小杉駅・新百合ヶ丘駅)の駅平均乗車人員			
算出方法	広域拠点の駅の川崎市統計書による乗車人員を合計				
指標の考え方	川崎、武蔵小杉、新百合ヶ丘駅周辺の整備を進め、各駅周辺の魅力が高まることで、各駅周辺の来街者や就業者等の増加が見込まれるため、往来するための代表的な交通手段である鉄道駅の利用者数を指標として設定する。				
指標の目標値	第1期策定時 52.4万人(H25)	第1期目標 53.8万人以上(H28)	第2期目標 58.8万人以上(R2)	第3期目標 59.8万人以上(R6)	
目標値の考え方	将来人口推計により算出した増減率を使用し、各年度の駅平均乗車人員の推計値を算出し、目標とする。				



魅力と活力にあふれた広域調和型まちづくり

- 川崎市は「広域調和・地域連携型」の都市構造を目指しており、①川崎駅周辺地区、②小杉駅周辺地区、③新百合ヶ丘駅周辺地区を「広域拠点」として位置付けています。
- 「広域拠点」においては、東京や横浜の間に位置する地理的優位性を活かした商業、業務、都市型住宅等の都市機能の強化と、民間活力を活かした市街地再開発事業等を進めてきました。



川崎駅周辺地区のまちづくり

- 川崎駅周辺地区では、「川崎駅周辺総合整備計画」に基づき、本市の玄関口にふさわしい、多様な賑わいや交流が生み出す活力と魅力にあふれた広域拠点の形成を推進しています。

- JR川崎駅北口自由通路等整備事業
- ・H29. 6月 中央北改札先行開業
 - ・H30. 2月17日 北改札開業・北口通路供用開始
 - ・H30. 12月 全面開業（既存駅舎改修含む）

- 川崎駅北口西バス乗り場等へのネーミングライツの導入
- ・H30. 1月 ネーミングライツパートナーの決定
 - ・H30. 2月17日 北口通路・北改札供用にあわせた先行使用の開始
 - ・H30. 4月～ 本格実施

至品川・羽田空港

- 京急川崎駅周辺地区まちづくり誘導
- ・H27. 3月 整備方針策定
 - ・H29. 4月 包括連携協定締結

- 川崎駅西口駅前ペDESTリアンデッキ
- ・H30. 1月11日 供用開始

- 川崎駅西口大宮町地区A-2街区民間開発誘導
(オフィス・ホテル・コンファレンス・生活利便施設の複合開発)
- ・H29. 1月 環境影響評価手続き着手
 - ・H30. 5月 工事着手
 - ・R 2. 5月 ホテル棟先行開業
 - ・R3年春 工事完成（予定）

- 川崎市役所本庁舎等建替事業
- ・H29. 11月 基本設計公表
 - ・H30年度 実施設計
 - ・R元年度 旧本庁舎地下解体
 - ・R2年度 新本庁舎着工
 - ・R4年度 新本庁舎完成（予定）
 - ・R6年度 広場完成（予定）



- ルフロンリニューアルオープン
- ・H31. 4月 フードコート、一部専門店
 - ・R1. 8月～ ライフ、一部専門店
 - ・R2. 7月～ 水族館（予定）

- さいか屋・ラチッタデッラ周辺まちづくり誘導
- ・H25. 8月 高速路線バス停留所整備
 - ・H27. 5月 さいか屋店舗閉鎖
 - ・H28. 2月 地区計画決定
 - ・R1. 8月 川崎ゼロゲート開業

- 公共空間の有効活用
- ・H30年度～ 広告事業等の社会実験の実施、調査・検証
 - ・R2年度～ 本格実施（予定）

- 都市再生安全確保計画に基づく取組
- ・H27年度 川崎アゼリア地下街防災推進事業完成
 - ・行動ルールに基づく帰宅困難者対策訓練

至横浜

至横浜

川崎駅周辺総合整備事業①

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 回遊性・利便性向上に向けたミュージアエスカレーター屋根が完成しました。
- 北口西バス乗り場出入口が完成しました。



至東京 至品川・羽田空港

【平成30年度、令和元年度】

- 駅周辺の慢性的な渋滞緩和、路線バスの定時性向上が図られた。
- 歩車分離による安全安心な歩行者動線を確保した。

【平成30年度】

- 駅周辺の回遊性、利便性の向上が図られた。
- 雨天等、悪天候時における安全性が向上した。



至横浜

至横浜

川崎駅周辺総合整備事業②-1

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 公共空間の有効活用による賑わいの創出等に向け、広告物社会実験等を推進

1 取組の方向性

川崎駅周辺の公共空間を有効活用し、駅周辺の更なる商業活性やまちの賑わいの創出を図るとともに、規制緩和等により生まれた新たな財源を施設の維持管理や周辺のまちづくりに還元・再投資することでスパイラルアップによる川崎駅周辺地区の価値の向上を図る。



川崎駅周辺総合整備事業②-2

概要 背景 取組 成果 まとめ

2 広告事業の実施

新たな財源確保に向けた取組として、川崎駅北口通路西側デッキネーミングライツ(H30.4~)、川崎駅北口通路広告掲載事業(H30.10~)を実施し、川崎駅周辺の環境美化・賑わいの創出に向けた取組に還元・再投資してきた。

また、令和元年9月より川崎駅東口駅前広場及び北口通路西側デッキを対象エリアに、広告事業の社会実験を実施しており、効果検証の上、令和2年秋ごろの本格実施に向けて取組を進めている。

3 川崎駅東口駅前広場等における社会実験の概要

対象エリアにおいて、広告事業者は広告物の掲出の審査基準となる『川崎駅周辺地区における公共空間を活用した屋外広告物掲出ガイドライン(案)』に基づき、広告塔の設置や既存案内サインへの広告添架などにより広告を掲出し、その広告の効果や影響について、都市景観審議会や屋外広告物審議会などの意見を参考に、様々な検証をした上で本格実施の可否を判断する。

○社会実験の対象エリア



○広告塔(紙ポスター式、デジタル式)



○案内板への広告添架

京急川崎駅周辺地区整備事業①

- 京急川崎駅周辺地区については、羽田空港との直結などの地理的優位性を活かし、川崎の玄関口にふさわしい商業・業務等を集積するなど、民間活力を活かして賑わいを創出します。

○目指すべき都市像【整備方針】

- ・京急川崎駅を中心とした「核」と周辺市街地との調和を図る「ゾーン」の形成
- ・JR川崎駅-京急川崎駅周辺地区の賑わいを結ぶ「軸」の創出

1. 京急川崎駅周辺地区まちづくり整備方針【平成27年3月】

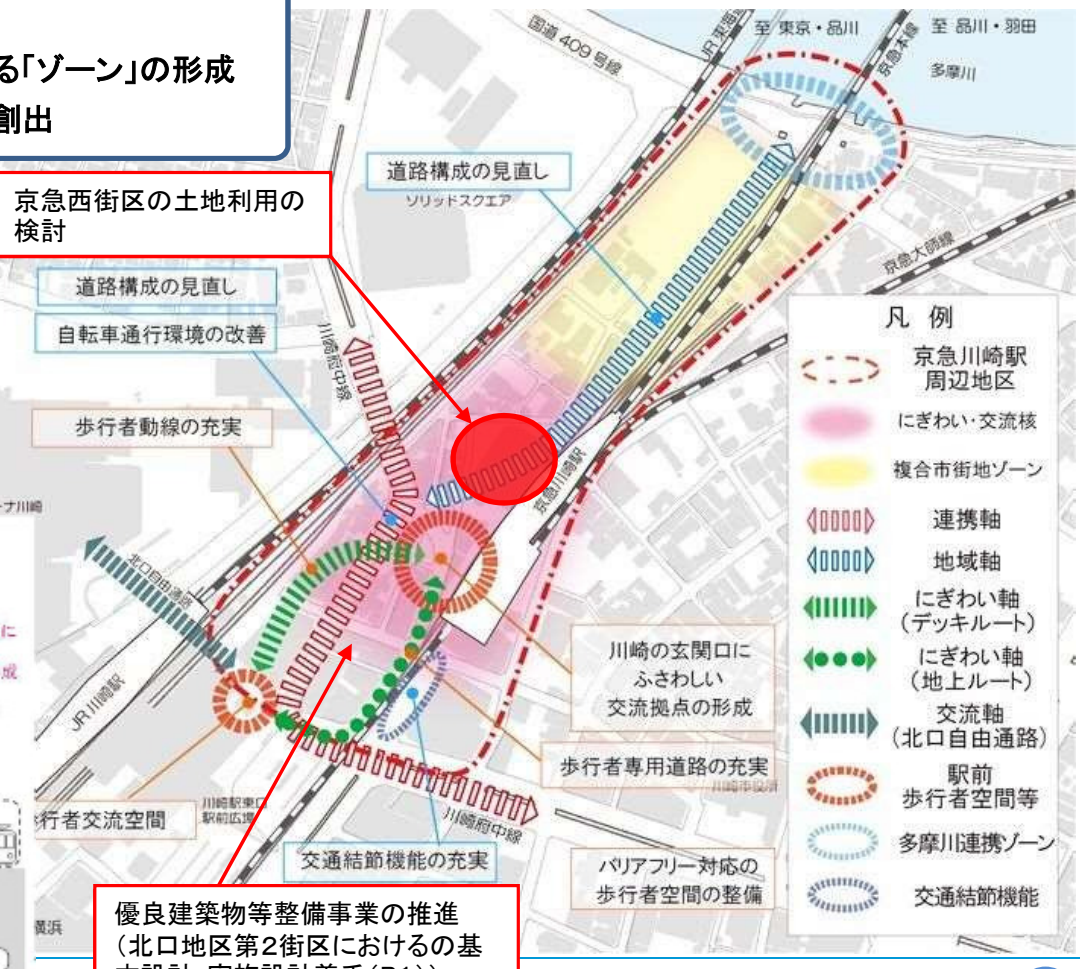
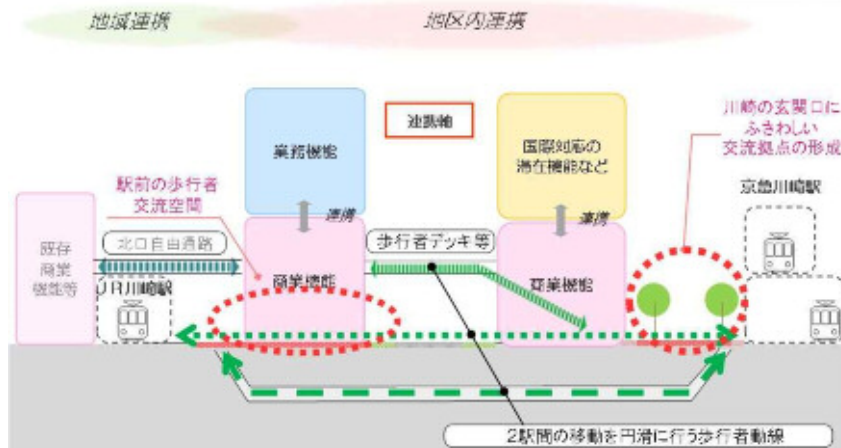
【目的】

- ・羽田空港の国際化を踏まえて川崎の玄関口にふさわしい商業・業務の集積による賑わいを民間主導で創出

2. 京急電鉄との包括連携協定【平成29年4月】

【連携・協力の基本的な事項】

- 交通 駅周辺のまちづくりと交通結節機能強化に関すること
- 産業 沿線の産業や観光等の発展に資するまちづくりに関すること
- 暮らし 誰もが暮らしやすいまちづくりに関すること



優良建築物等整備事業の推進
(北口地区第2街区におけるの
基本設計・実施設計着手(R1))

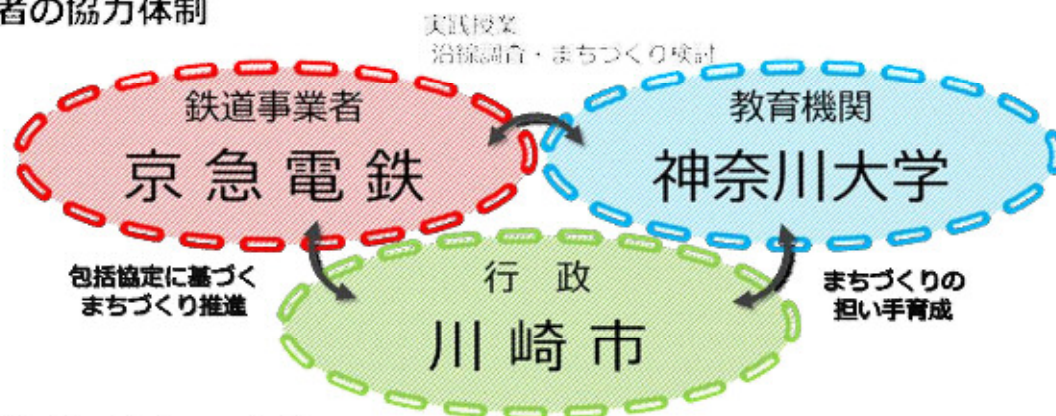
京急川崎駅周辺地区整備事業②

概要 背景 取組 成果 まとめ

神奈川大学、京急電鉄、川崎市の3者協定締結

- 京急線（川崎市域）におけるまちづくりについて、調査、研究等を行うことにより、鉄道・駅を中心としたまちの活性化および将来ビジョンの形成に寄与することを目的に協定を締結。（H30.6.15）

3者の協力体制



八丁畷駅前空地ワークショップ



第1回2019.2.3(日)
チョークアートイベント



第2回2019.4.7(日)
SPORTS AND CAFE



第3回2019.7.19(金)、20(土)
まちかどOPEN!

小杉駅周辺地区のまちづくり①

概要 背景 取組 成果 まとめ

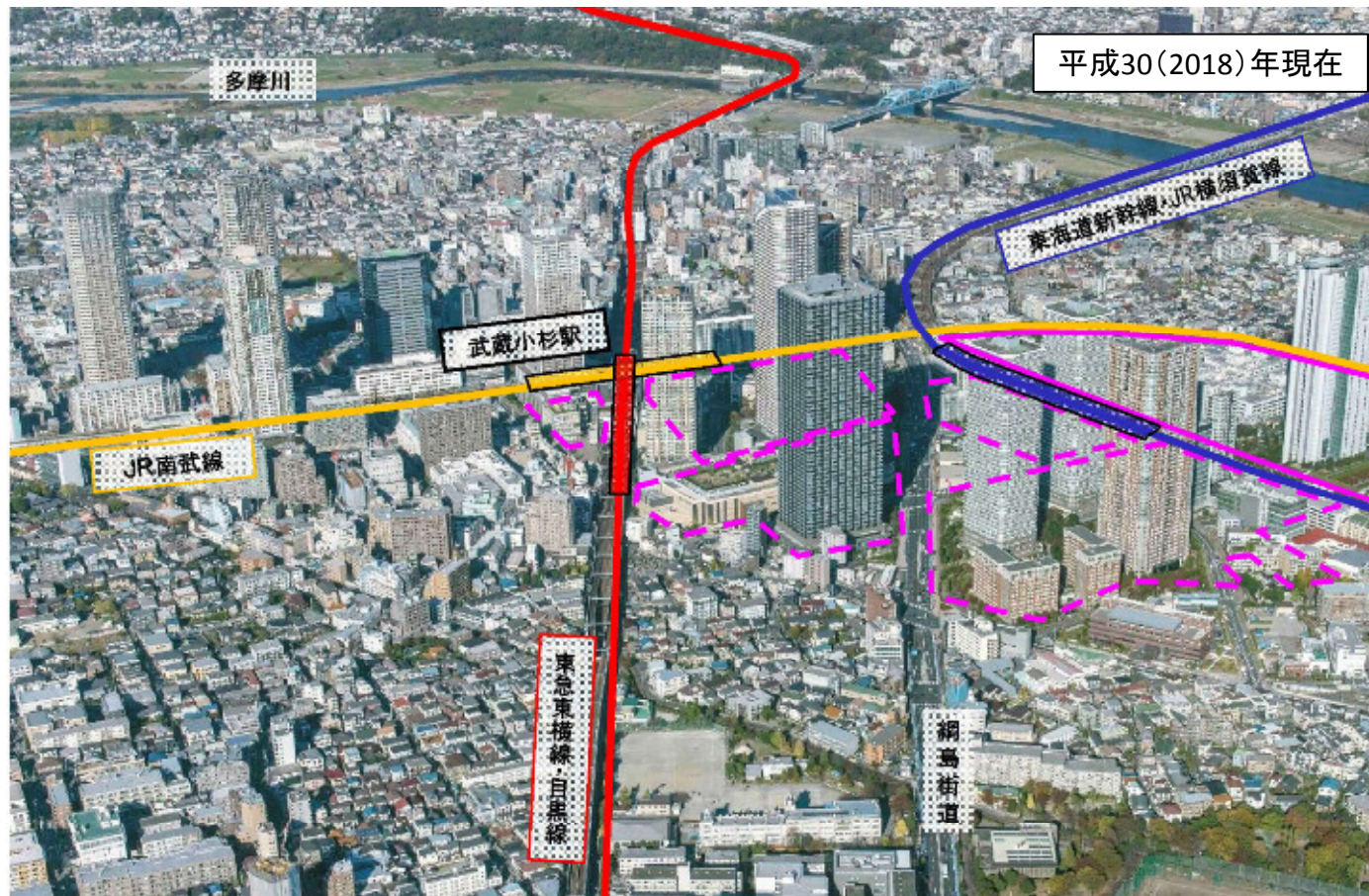
- 小杉駅周辺地区では、平成初期頃、経済のグローバル化に伴う産業構造の変化などによって企業内の再編が進み、工場の撤退や高度化が進められました。次々に大規模な土地利用転換が検討されることとなり、また地区内は土地の高度利用が図られていないところも多かったことから、地区全体のあり方について検討を進め、大規模な土地利用転換の機会を捉えて、まちづくりの誘導に取り組むこととなりました。



小杉駅周辺地区のまちづくり②

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 大規模な土地利用転換が見込まれる中で、計画的に一体的なまちづくりを実現するため、平成21(2009)年にまちづくりの基本コンセプトや都市構造のあり方などをまとめた「都市計画マスタープラン小杉駅周辺まちづくり推進地域構想」を策定し、これに基づいて計画的な開発を誘導しています。



小杉駅周辺地区整備事業

概要 / 背景 / 取組 / 成果 / まとめ

- 平成30(2018)～令和元(2019)年度にかけては、小杉町2丁目地区(完了)、小杉町1・2丁目地区(事業中)、小杉町3丁目東地区(事業中)の各事業を推進しました。
- これらの事業により、国際会議の開催が可能な大規模コンベンション施設である川崎市コンベンションホールの開設や、小杉小学校の新設などを実施しました。

■ 整備状況図

小杉町2丁目地区【完了】

社宅跡地や老朽化の進む中・高等学校等からなる地区でしたが、高い災害対応の応力を備える教育施設とともに、商業・コンベンション・住宅による複合開発が行われました。

◎主要用途：商業、コンベンションホール、住宅、保育所、学校

◎地区計画：小杉町2丁目地区(H25年度)約3.3ha

◎事業等：民間開発事業(事業期間：H25～30)

■川崎市コンベンションホール
 ・平成30(2018)年4月開設
 ・国際会議の開催が可能な大規模コンベンション施設



小杉町1・2丁目地区【事業中】

日本医科大学武蔵小杉病院・新丸子キャンパス旧跡地の再開発が課題となっている地区でした。医療機能の充実と新たな高齢者福祉機能や交流機能など地域に根差した「医療と文化の核」を目指し、整備が進められています。

◎主要用途：小学校、病院・教育施設、商業、高齢者向け福祉施設、保育所、住宅

◎地区計画：小杉町1・2丁目地区(H28年度)約5.8ha

◎事業等：民間開発事業(事業期間：H27～R7)

■川崎市立小杉小学校
 ・平成31(2019)年4月開校
 ・周辺地域の児童増加に対応し新設



小杉町3丁目東地区【事業中】

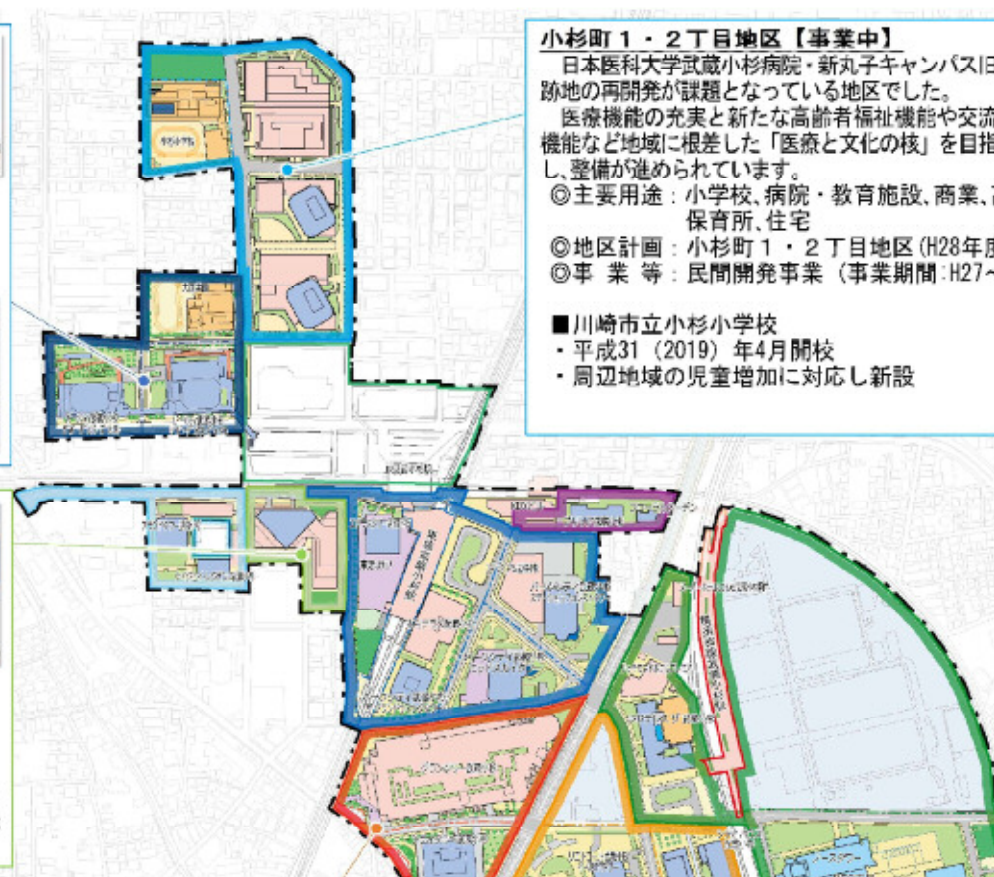
小規模な敷地に老朽化した商業業務施設が建ち並び、都市基盤施設等の整備水準が低い地区でした。

商業・業務・住宅に加え、子ども文化センターや総合自治会館を含む複合開発が行われ、道路・広場空間・歩道状空気を整備し、交通利便性・回遊性・安全性の向上を図っています。

◎主要用途：商業、業務、住宅、保育所、子ども文化センター、総合自治会館

◎地区計画：小杉町3丁目東地区(H25年度)約1.1ha

◎事業等：小杉町3丁目東地区第一種市街地再開発事業(事業期間：H26～R2)

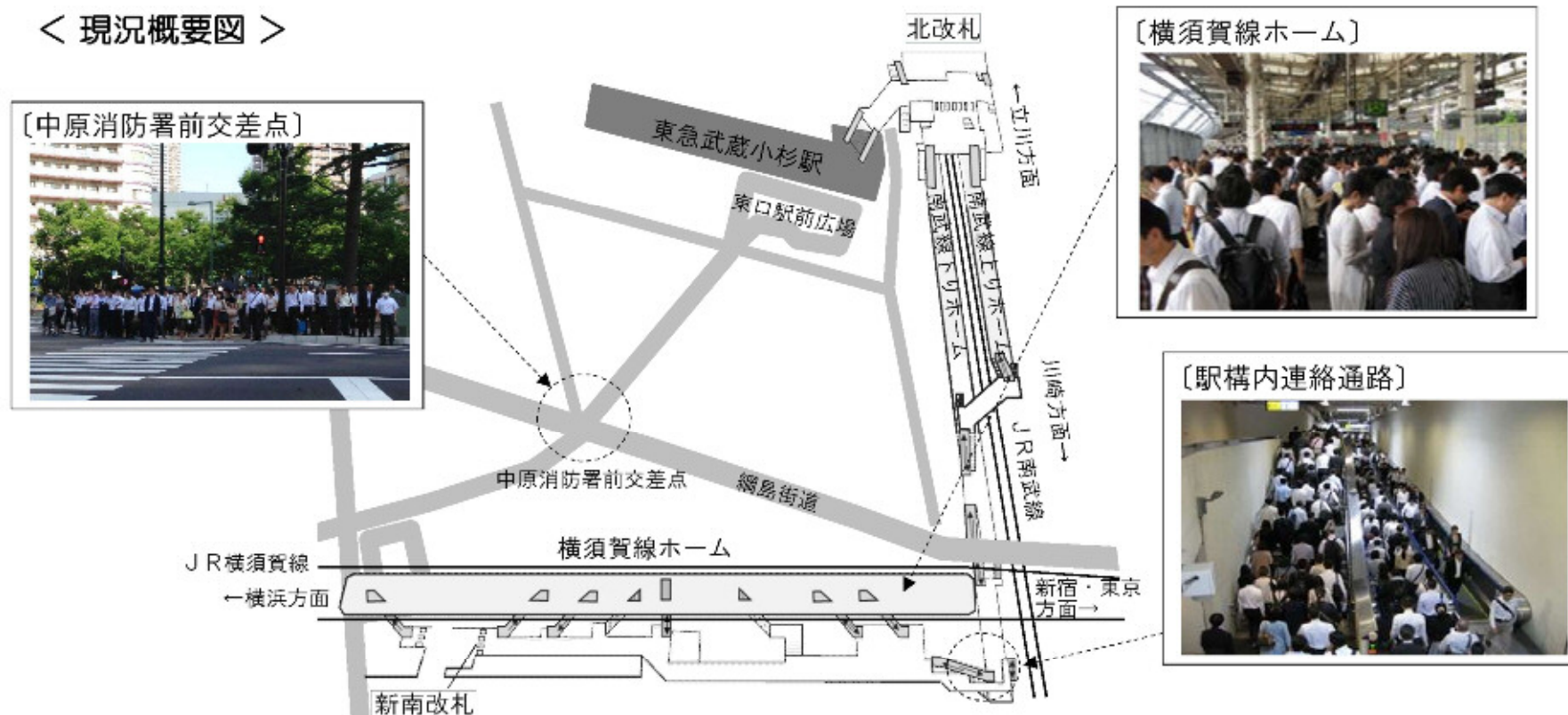


小杉駅交通機能強化等推進事業①

概要 / 背景 / 取組 / 成果 / まとめ

- JR横須賀線武蔵小杉駅開業や駅前広場、周辺道路等の基盤整備を行い、交通機能強化を図ることにより、魅力と賑わいのあるまちづくりを推進してまいりました。
- JR武蔵小杉駅の利用者増に伴い、JR横須賀線武蔵小杉駅及び駅周辺の一層の安全性・利便性向上を図るために、平成30年7月、JR東日本と抜本的な混雑緩和対策を進めていくための基本的な事項について覚書を締結しました。

< 現況概要図 >

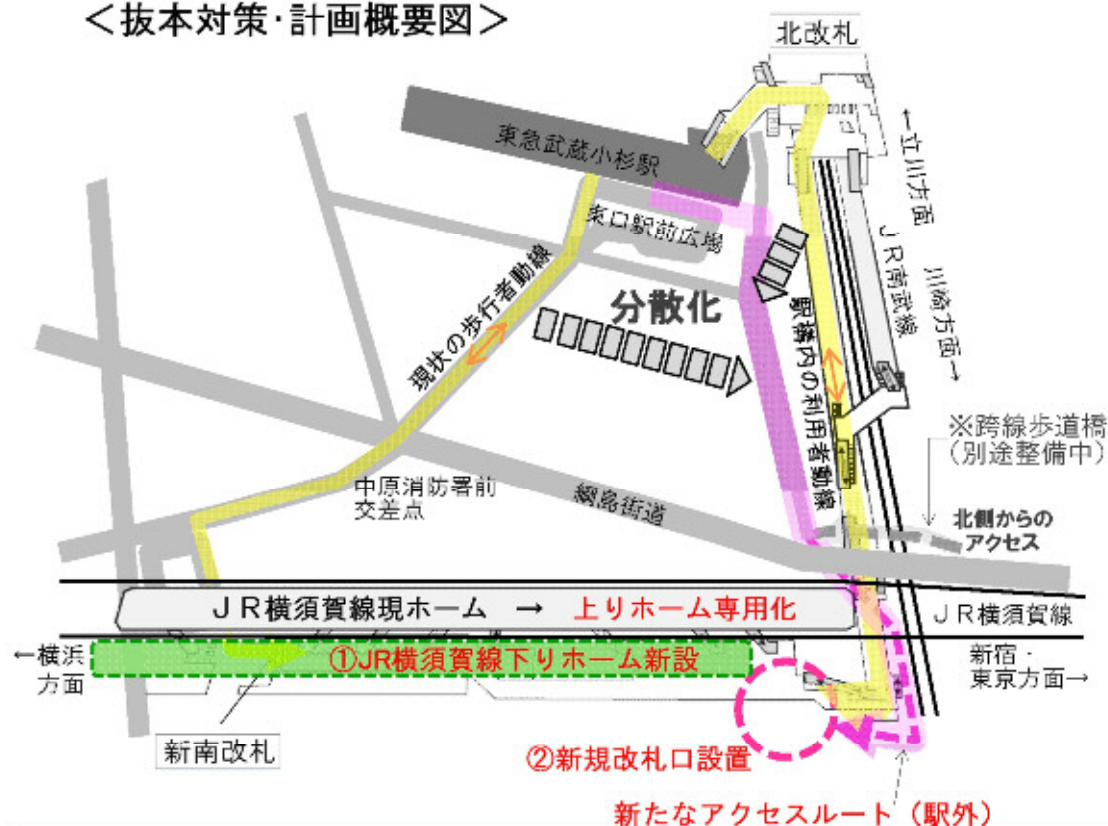


小杉駅交通機能強化等推進事業②

概要 / 背景 / 取組 / 成果 / まとめ

- 抜本対策として①「JR横須賀線下りホーム新設」、②「新規改札口設置」を推進します。
⇒整備に必要となる用地を取得しました。(令和元年度)
- その他、JR東日本により、安全性向上に向けた取組を実施します。
⇒新南改札の入場専用臨時改札設置(平成30年度)、ホーム転落防止注意喚起センサー整備(令和元年度)など

<抜本対策・計画概要図>



① JR横須賀線下りホーム新設

横須賀線ホームの混雑緩和を図るため、下りホームを新設(2面2線化)します。JR東日本が負担することを基本とします。

② 新規改札口設置

駅構内及び駅周辺の歩行者の分散化による混雑緩和と、南武線北側からのアクセス性の向上を図るため新規改札口を設置します。川崎市が負担することを基本とします。

スケジュール

- H30 7月～ 下りホーム新設 設計着手
- H30 10月～ 新規改札口 調査基本設計着手
- R元年度 用地取得
- R4年度末頃 下りホーム新設 工事着手
- R4年度末頃 新設下りホーム 供用開始予定
- R5年度以降 新規改札口 供用開始予定

新百合ヶ丘駅周辺地区のまちづくり

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 新百合ヶ丘駅周辺地区では、豊かな自然環境や文化・芸術等の地域資源、充実した都市機能を活かした、より質の高い、魅力ある拠点形成を推進しています。
- 当地区では、横浜市高速鉄道3号線の延伸計画などの進捗状況を踏まえつつ、周辺環境の変化を見据え、適切な土地利用転換の誘導や交通結節機能の強化に向けた取組を進める必要があります。

地域資源

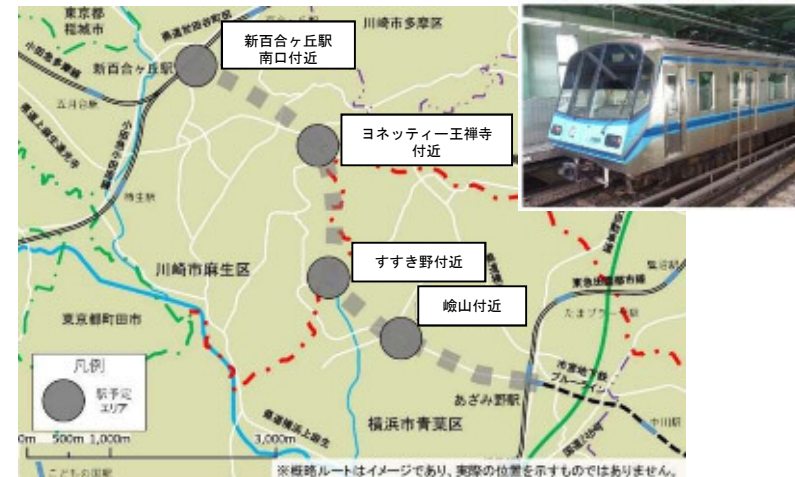


開館10周年を
迎えた川崎市
アートセンター

地域の企業・団体・大学・行政が協力して企画・運営するイルミネーションイベント
”kirara@アートしんゆり”



周辺環境の変化



横浜市高速鉄道3号線延伸計画

横浜市高速鉄道3号線の延伸(あざみ野～新百合ヶ丘)については、平成31年に事業化判断し、令和2年に概略ルート・駅位置を決定(新百合ヶ丘駅南口付近へ接続)
⇒令和12年開業目標

新百合ヶ丘駅周辺地区まちづくり推進事業

概要 背景 取組 成果 まとめ

- 横浜市高速鉄道3号線のルート決定等の動向を踏まえながら、新百合ヶ丘駅周辺のまちづくりの方向性を検討しました。
- 駅周辺の魅力向上や麻生区の芸術のまちづくりの推進に向け、鉄道事業者やエリアマネジメントコンソーシアム等と連携して、ステーションピアノ設置の実証実験を行いました。

駅周辺のまちづくりの方向性（新百合ヶ丘駅付近）

民間活力を活かした土地利用転換の誘導や交通結節機能の強化、駅周辺の回遊性向上を目指し、ハード・ソフト両面での総合的な取組により、広域拠点にふさわしいまちづくりを推進します。

平成30年4月

『新百合ヶ丘エリアマネジメント
コンソーシアム』設立



しんゆりフェスティバルマルシェ(南口デッキ)

実証実験

川崎市、小田急電鉄(株)、昭和音楽大学、新百合ヶ丘エリアマネジメントコンソーシアムが連携して、小田急線新百合ヶ丘駅コンコース等に「ステーションピアノ」を設置しました。

[期間]

令和元年11月～令和2年1月

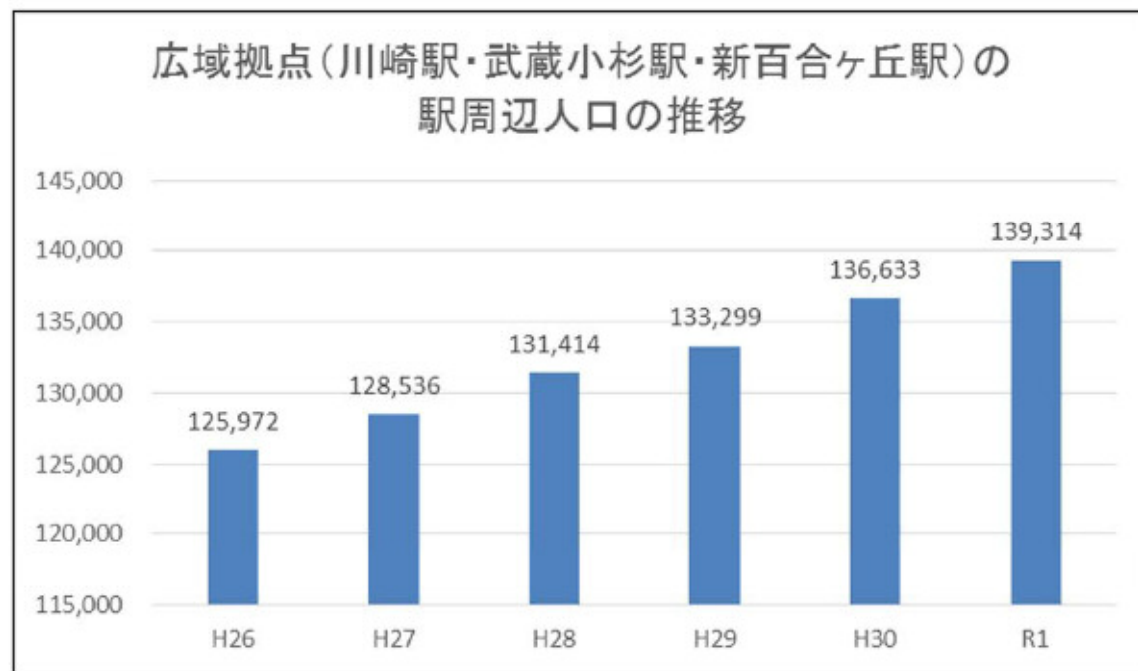


成果指標①の達成状況(目標達成)

概要 背景 取組 **成果** まとめ

広域拠点(川崎駅・武蔵小杉駅・新百合ヶ丘駅)の駅周辺人口

- 広域拠点(川崎駅・武蔵小杉駅・新百合ヶ丘駅)の駅周辺人口は、令和元年度の実績が13.9万人となり、第1期策定時から1.3万人増加し、目標を0.5万人上回りました。



	第1期策定時(H26)	H30	R1
目標		13.2万人	13.4万人
実績	12.6万人	13.6万人	13.9万人

	H30	R1
川崎駅周辺	42,133	42,148
武蔵小杉駅周辺	75,246	77,771
新百合ヶ丘駅周辺	19,254	19,395
合計	136,633	139,314

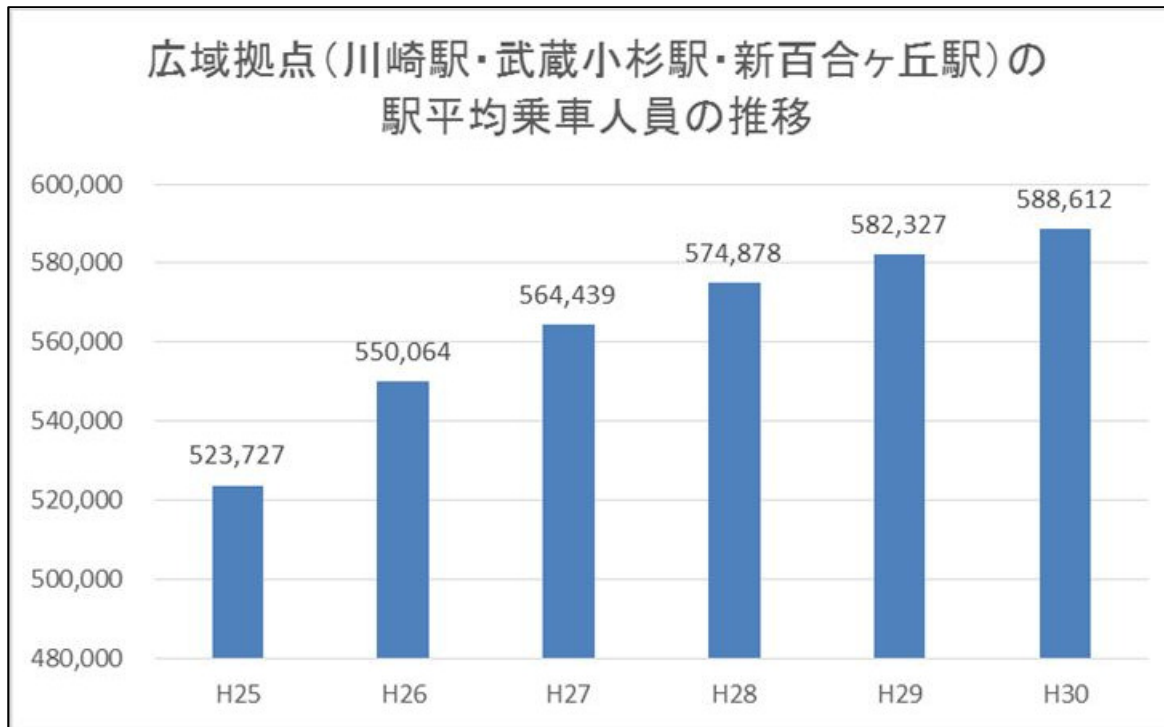
(出典:川崎市統計書)



成果指標②の達成状況(目標達成)

広域拠点(川崎駅・武蔵小杉駅・新百合ヶ丘駅)の駅平均乗車人員

- 広域拠点(川崎駅・武蔵小杉駅・新百合ヶ丘駅)の駅平均乗車人員は、令和元年度の実績が58.8万人となり、第1期策定時から6.4万人増加し、目標を2.0万人上回りました。



	第1期策定時(H25)	H30(H29実績)	R1(H30実績)
目標		55.8万人	56.8万人
実績	52.4万人	58.2万人	58.8万人

	H29	H30
川崎駅周辺	276,572	280,561
武蔵小杉駅周辺	242,369	243,768
新百合ヶ丘駅周辺	63,386	64,283
合計	582,327	588,612

(出典:川崎市統計書)

施策の進捗状況

概要 / 背景 / 取組 / 成果 / **まとめ**

施策の進捗状況

A 順調に推移している(目標を達成した)

理由

- ① 配下の事務事業の取組は、概ね掲げた目標どおりに進捗しました。
- ② 広域拠点の駅周辺人口及び駅平均乗車人員とも、数値目標を達成していることから、引き続き、目標達成に向けて事業を推進します。

【施策の進捗状況区分】

- A 順調に推移している(目標を達成した)、B 一定の進捗がある(目標未達成のものがあるが一定の進捗があった)
C 進捗は遅れている(1期策定時を下回るものが多くあった)、D 進捗は大幅に遅れている(1期策定時を大幅に下回った)

施策の今後の方向性

概要 / 背景 / 取組 / 成果 / **まとめ**

今後の方向性

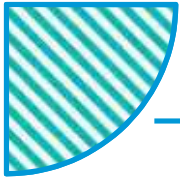
I 効果的な事業構成である(現状のまま継続する)

理由

- ① 川崎駅周辺は、川崎駅周辺総合整備計画に基づき、引き続き、事業を推進します。
- ② 京急川崎駅周辺は、交通管理者や関係権利者との合意形成を図りながら土地利用・基盤整備方針を策定し、今後、都市計画の変更手続き等を推進することで、川崎の玄関口に相応しい駅前空間を創出し、魅力と活力にあふれる広域拠点の形成を進めていきます。
- ③ 小杉駅周辺は、広域拠点の形成に向けた都市機能の集積や基盤整備等について、今後も民間開発事業を的確に捉え適切に誘導を図りながら、都市の活力向上による持続可能なまちづくりを推進するとともに、駅利用者の安全性・利便性向上に向けた抜本的な対策の実施に向けて、鉄道事業者と連携して設計等を進めていく中で、工期の短縮に向けた施工方法の精査等も併せて行い、早期の供用開始を目指していきます。

【今後の方向性区分】

- I 効果的な事業構成である(現状のまま継続する)、II 概ね効果的な構成である(一部見直し等の余地がある)
III あまり効果的な事業構成でない(見直し等の余地が大きい)、IV 事業構成に問題がある(抜本的な見直し等が必要である)



施策の今後の方向性

- ④ 新百合ヶ丘駅周辺は、横浜市高速鉄道3号線延伸計画の進捗など周辺環境等の変化を注視しながら、新百合ヶ丘駅周辺のまちづくりの検討を行い、広域拠点として相応しい土地利用誘導を継続して行っていきます。

【今後の方向性区分】

- I 効果的な事業構成である(現状のまま継続する)、II 概ね効果的な構成である(一部見直し等の余地がある)
- III あまり効果的な事業構成でない(見直し等の余地が大きい)、IV 事業構成に問題がある(抜本的な見直し等が必要である)



新型コロナウイルス感染症を踏まえ、今後に向けて

概要 / 背景 / 取組 / 成果 / まとめ

- ・現時点では各事業の進捗に対して大きな影響が生じていないものの、今後の新型コロナウイルス感染症の状況次第では、各事業の実施に際し影響を与える可能性が考えられます。
- ・各事業においては、事業者や市民等との調整時やイベント実施時に影響があると考えられますので、今後は新型コロナウイルス感染症があることを前提とした「新しい生活様式」を考慮し、取組を進めます。具体的には、事業者等との接触時にはオンライン会議の活用や対面での場合は換気とマスクの着用、イベント実施時には「3密」の回避やマスクの着用・空間の確保などの新型コロナウイルス感染症対策を継続的に実施していきます。
- ・新型コロナウイルス感染症対策により各事業者がテレワークを推進していることや各種イベントの自粛により、本施策の成果指標である「広域拠点(川崎駅・武蔵小杉駅・新百合ヶ丘駅)の駅平均乗車人員」に影響が出ることが想定されます。



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市